

(仮称) 竹野学園の構想

1

はじめに

教育課題（学力・不登校・特別な支援）の解決に向けて

H19～ 小中連携教育

H29～ 小中一貫教育

◎系統性と一貫性のあるカリキュラム

ふるさと教育，英語教育，コミュニケーション教育

◎9年間連続した学習指導と生活指導

授業づくりと学級づくり，引継連携システム，
家庭・地域との連携

2

*引継連携システム

○アプローチ&スタートカリキュラム

子どもたちが中学校進学における生活や学習の変化に対応して、
乗り切ることを支援するためのカリキュラム

例えば・・・

小6体験入学、授業体験、部活動見学など



大切にしてきたのは

「違い」を知ること（子ども・大人）

一緒に取り組むこと（教職員・保護者）

3

竹野学園の最大の特徴は・・・

『一緒に過ごす』こと

- 1 小学生と中学生が
- 2 小中学校の教職員が
- 3 学校と地域が

一緒に過ごす＝直接見る・感じる
情報をリアルタイムに共有できる

4

1 小学生と中学生が → 「異学年・異校種交流」

(1) 日常的に
登下校，清掃，業間時間

(2) 計画的に
行事，児童会・生徒会

***ブロック制(4・3・2)**
・小学校の「低・中・高」
学年のくくりを9年間に
広げるイメージ。
・子どもたちの発達状況に
あわせて活用

➡ **上級生が下級生のモデルに！**
憧れや感謝・誇り・思いやり

5

参考 ブロック制



6

2 小中学校の教職員が → 「協働」

(1) 日常的に
授業，生活指導，キャリア教育 等

(2) 計画的に
行事，研修 等

同じ目標に向かって、
それぞれの特性を生かして
役割分担しながら取り組む
こと

➡ **視野・見識を広げる**
資質・能力を向上させる

7

*教職員の組織

一つの教職員組織
一つの職員室

- 校長は1人
- 教頭は3人（前期担当・後期担当・総括）

その他は現在の小学校・中学校の教職員数を
あわせた人数

（例）養護教諭・事務職員は各2人

8

3 学校と地域が → 「協働」

(1) 日常的に

登下校、各種ボランティア、
コミュニティ・スペース 等

(2) 計画的に

行事等、たけのふるさと科（仮称）

➡ 「一体感」「地域の学校」
子どもたちの「居場所」

9

特色あるカリキュラム「たけのふるさと科（仮称）」の取組（案）

- ◎ 「ふるさと」とつながる自然、文化、歴史、産業、人等を教材として
- ◎ 各教科で学習したことを活用して



「探究的な学習」

課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・発表

* 自分なりに日常生活や社会に目を向けて、地域の中から問題を探す

・ 地域の人材、企業等とともに学びを展開する

・ 学校だけではなく、地域や企業等に向けても成果を発表する

「竹野の活性化」の担い手を育てる

10

「たけのふるさと科」（仮）単元一覧表（案）

学年	学習区分	テーマ	学習内容（予定）
1年	【基礎期】	竹野の四季	たけのきりり！きせつとあくしゅ
2年	地域の人と触れ合い、地域環境の魅力を学ぶ	町探検	町のすてき 大はっ見
3年		環境	自然とともに生きよう ～竹野のひみつを再発見～
4年		産業・文化	竹野おこし協力隊 ～竹野のお宝を伝えよう～
5年	【充実期】	防災	守ろう、ふるさととのいのちとくらし
6年	背景にある歴史や自然を生かした産業等について学ぶ	観光	竹野の魅力 再発見！ ～竹野のよさを発信しよう～
7年		竹野町の活性化	竹野町活性化プロジェクトⅠ —竹野の「自慢」をPRしよう—
8年			竹野町活性化プロジェクトⅡ —竹野の課題を明らかにし、課題解決に向けて提案しよう—
9年	地域の魅力や課題、めざす未来像を発信する		竹野町活性化プロジェクトⅢ —竹野の「未来創造プラン」を創って提案しよう—

- 1～9年生まで、STEAM教育の視点を学習活動に取り入れる。
- 課題設定については、教員が主導するのではなく、**子ども主導で設定する**。
自分なりに日常生活や社会に目を向けて地域の中から問題を探し、自ら課題を設定する。
- 地域の人材、企業、大学生等と共に学びを展開する。

※コミュニケーション教育…言語表現、身体表現等
※ICTの効果的な活用…他者参照（ロイノート等の活用）
課題解決や情報発信（SNS、Youtube等の活用）
※英語教育…英語で学習内容を情報発信、観光客とコミュニケーション等

11

★特色あるカリキュラム「たけのふるさと科」

① 策定までの流れ

- 開設準備委員会、地域住民を交えたワークショップによる意見集約

- ・ 何を学ばせたいか
- ・ どのような力をつけたいか

開設準備委員会からの提言

- ・ 「ふるさと」を題材とした「探究的な学習」
- ・ 従来の「ふるさと教育」を充実、発展が望ましい

- 市教委事務局、管理職の協議による方向性の決定と草案の作成
- 各学年のカリキュラムの見直し
- ・ 系統性、地域とのつながりを重視する
- 基本的な学習の流れの作成

② 今後の予定

- 実践しながら、PDCAサイクルでカリキュラムを更新させていく
- 担当教員と保護者、地域住民等との意見交換などを通して、学習課題の充実を図る

12

★義務教育学校だからできること・・・「教科担任制」

例えば

(1) 中学校の専門性を活かして

例) 小学校「英語科」(5・6年)を中学校の英語科教員が指導
中学校の音楽科教員が全学年の音楽を指導

(2) 配置教員の所有免許を活かして(実技教科)

例) 小学校の教員(免許所有者)が中学校の実技教科を指導
※免許外指導の解消

***小・中学校の学習の進め方(6年・45分, 3年・50分 等)
は変わりません!**

主な学校行事 ※作成途中で

	前期課程	後期課程	全校行事
4月	入学式(1年生)	後期課程進級式(7年生)	
5月	前期修学旅行(6年生)	修学旅行(9年生)	リサイクル活動(P T A)
6月	自然学校(5年生)	トライやるウィーク(8年生)	オープンスクール
7月			
8月			
9月			ふるさと学習発表会(8~9年生)
10月			体育祭
11月			オープンスクール
12月			
1月			
2月			ふるさと学習発表会(1~7年生)
3月	前期課程修了式(6年生)	卒業式(9年生)	

これらを通して

ワークショップの意見
(抜粋)

- ・時代に対応した強い心
- ・図太い心
- ・自己肯定力[高]
- ・疑問を持つ力
- ・ひらめく力、尽きない探求心
- ・ここから考えてより良く
発展させる力
- ・主張したり相手の話を聞いて折
り合いをつけたり話し合う力
(コミュニケーション力)
- ・観光案内

【めざす子ども像】

自分ごととして考え、自分から行動する子
互いの良さを認め合い、協力して取り組む子
強くしなやかな心を持ち、ねばりづよく努力する子

【3つの育てたい力】

- 1 自分と向き合う力
・自制心 ・忍耐力 ・乗り越える力
- 2 自分を高める力
・主体性 ・自尊感情 ・向上心
- 3 他者につながる力
・コミュニケーション力 ・共感性 ・協調性

**実現に向けて
学校・家庭・地域が一体となって取り組
んでいきましょう!**